

## 小路池 (こうじいけ)



### 諸元

貯水量	218.9 千m <sup>3</sup>
満水面積	3.3 ha
受益面積	112.5 ha
堤高	15.2 m
堤長	260 m

小路池築造の発端として、明治 42 年(1909 年)、相生村に水田を所有していた村外の地主である佐野新平が、この地の水利が不備なため収益が上がらないとして新池構築を提案し、村長がこれを取り上げ県に申請した出来事がありました。しかしながら、相生村の村民から村外の地主や村長が主になって構築する池には賛同できないとして猛反対され、計画は立ち消えました。

大正 10 年(1921 年)、再びため池構築の話が持ち上がり、相生村の村長が大正 12 年(1923 年)に協議会を誕生させました。昭和 9 年(1934 年)、候補地が決定し、事業要件を満たす目途が立ったため、県に申請書を提出しました。その後、関係者の同意徴収に際し、反対派と賛成派で骨肉の争いにまで発展しましたが、なんとか全員の同意を取りつけました。昭和 11 年(1936 年)から工事に取りかかり、昭和 13 年(1938 年)に完成しましたが、ため池築造に適した土が手に入らず、やむなく使用不適な土で完成させたため漏水がひどく、ため池としての役割は果たせていませんでした。戦争のあおりもあり、完成から 28 年後の昭和 41 年(1966 年)になってようやく堰堤補修事業が始まり、日の目を見るにいたりました。



小路池



上流を望む